

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 九州財務局長

【提出日】 平成26年8月12日

【四半期会計期間】 第36期第1四半期(自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)

【会社名】 株式会社ヒガシマル

【英訳名】 HIGASHIMARU CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 東 紘一郎

【本店の所在の場所】 鹿児島県日置市伊集院町猪鹿倉20番地

【電話番号】 099-273-3859 (代表)

【事務連絡者氏名】 管理部長 木通 昌生

【最寄りの連絡場所】 鹿児島県日置市伊集院町猪鹿倉20番地

【電話番号】 099-273-3859 (代表)

【事務連絡者氏名】 管理部長 木通 昌生

【縦覧に供する場所】 証券会員制法人福岡証券取引所
(福岡市中央区天神二丁目14番2号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次 会計期間	第35期 第1四半期 連結累計期間	第36期 第1四半期 連結累計期間	第35期
	自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日	自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日	自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日
売上高 (千円)	2,380,962	2,438,704	9,804,165
経常利益 (千円)	83,115	73,826	460,092
四半期(当期)純利益 (千円)	43,527	47,538	431,423
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	70,301	64,260	442,312
純資産額 (千円)	4,961,949	5,360,579	5,333,960
総資産額 (千円)	11,278,899	11,293,295	11,067,122
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	9.25	10.10	91.69
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)			
自己資本比率 (%)	44.0	47.5	48.2

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社及び当社の関係会社において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社、以下同じ。）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、消費税率引き上げに伴う消費の低迷懸念や円安傾向から輸入品価格上昇等で景気不振リスク要因があったものの、政府・日銀による経済政策や金融政策の対策が顕在化し下支え効果から、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。

このような状況のなか、当社グループを取り巻く事業環境は、主原料（魚粉・小麦粉）価格が高止まりしているほか、消費者の節約・低価格志向が継続していることなどから、企業間の価格競争が続く厳しい経営環境で推移いたしました。

こうした環境の下、当社グループは市場動向を見極めながら積極的な販売活動を展開するとともに、生産性の効率化、材料コストの削減及び低採算商品の見直しに努め、売上成長を模索しながら利益重視の経営に取り組んでまいりました。

その結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高は24億38百万円と前年同期と比べ57百万円（2.4%）の増収、営業利益は84百万円と前年同期と比べ19百万円（30.4%）の増益、経常利益は73百万円と前年同期と比べ9百万円（11.2%）の減益、四半期純利益は47百万円と前年同期と比べ4百万円（9.2%）の増益となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

水産事業

水産事業におきましては、中南米の輸入魚粉マーケットは、魚粉原料のカタクチイワシ漁が低調で生産量が減少していることや中国を主体にアジア各国向けの引き合いが多く、魚粉価格は高値取引で先行き不透明な状況が続いております。

このような状況のなか、エビ飼料類及びハマチ飼料類は養殖飼育環境が良好であったことや生産物相場も前年度と比べ高値取引であったことなどを背景に、既存顧客のシェアアップ及び受託生産販売が順調に推移したことから売上高は前年同期を上回りました。マダイ飼料類は昨年の上昇前駆け込み需要の反動減や価格競争等で他社メーカーに流出（シェア減）したことから売上高は前年同期を大幅に下回りました。また、マリントック株式会社（当社100%子会社、愛知県田原市）は水産初期飼料の販売が順調に推移したことから前年同期を上回りました。

その結果、売上高は14億90百万円と前年同期と比べ1億29百万円（8.0%）の減収となりました。セグメント利益は83百万円と前年同期と比べ29百万円（53.9%）の増益となりました。

食品事業

食品事業におきましては、消費税率引き上げに伴い食料品の最寄品を中心に消費者の節約・低価格志向が継続するなかで、消費増税の影響は軽微に止まったものの、企業間の価格競争が続く厳しい事業環境で推移いたしました。

このような状況のなか、積極的な販売活動において「皿うどん」のテレビコマーシャルを行うと同時に全営業所で試食宣伝販売やキャンペーンを行うなど主力商品のPR・販売促進の強化に努めてまいりました。しかしながら、即席めん類の売上高は前年同期並みに止まり、乾麺類（うどん・そば・そうめん）及び皿うどん類が低調に推移したことから売上高は前年同期を下回りました。

コスモ食品株式会社（当社100%子会社、横浜市磯子区）は、玉ねぎ・胡麻・根昆布ドレッシングに続き、カレー・ルー製造のノウハウを活かし「カレードレッシング」を新発売するなど、新商品の育成に努めた結果、売上高は前年同期を上回りました。また、昨年7月に子会社となった株式会社向井珍味堂（当社100%子会社、大阪市平野区）の香辛調味料等の販売が売上高増に寄与しております。

その結果、売上高は9億48百万円と前年同期と比べ1億87百万円（24.6%）の増収となりました。セグメント利益は68百万円と前年同期と比べ8百万円（10.8%）の減益となりました。

(2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べ2億26百万円増加し、112億93百万円となりました。これは、主として流動資産の原材料及び貯蔵品が1億19百万円、現金及び預金が63百万円減少しましたが、受取手形及び売掛金が4億5百万円増加したことなどによるものであります。

負債は、前連結会計年度末と比べ1億99百万円増加し、59億32百万円となりました。これは、主として長期借入金が1億52百万円、未払法人税等が1億10百万円減少しましたが、買掛金が2億3百万円、短期借入金が1億90百万円増加したことなどによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末と比べ26百万円増加し、53億60百万円となりました。これは、主としてその他有価証券評価差額金が16百万円、利益剰余金が9百万円増加したことなどによるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

本年6月27日提出の有価証券報告書に記載のとおり、先行き不透明な経済環境や企業間競争が続く厳しい経営環境のなか、当社グループ丸となって、「企業収益力の向上」、「生産力・販売力の強化」、「研究開発の強化」、「マネジメントの改革」を推し進め、競争できる経営体質を目指してまいります。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間のグループ全体の研究開発費の総額は50百万円であります。

(注) 当第1四半期連結累計期間は、「第4 経理の状況」において四半期連結キャッシュ・フロー計算書を掲げていないため、キャッシュ・フローの状況に関する分析・検討内容は記載しておりません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	17,900,000
計	17,900,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成26年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年8月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	4,746,000	4,746,000	福岡証券取引所	単元株式数は 100株であります。
計	4,746,000	4,746,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成26年4月1日～ 平成26年6月30日		4,746		603,900		393,400

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成26年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 40,800		
完全議決権株式(その他)	普通株式 4,705,000	47,050	
単元未満株式	普通株式 200		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	4,746,000		
総株主の議決権		47,050	

【自己株式等】

平成26年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社ヒガシマル	鹿児島県日置市伊集院町 猪鹿倉20番地	40,800		40,800	0.85
計		40,800		40,800	0.85

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成26年4月1日から平成26年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成26年4月1日から平成26年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年 3月31日)	当第 1 四半期連結会計期間 (平成26年 6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,187,787	2,123,929
受取手形及び売掛金	1,379,581	1,785,350
有価証券	82,445	81,213
商品及び製品	443,260	487,680
仕掛品	118,076	101,081
原材料及び貯蔵品	1,149,748	1,029,986
その他	187,534	173,474
貸倒引当金	7,168	8,396
流動資産合計	5,541,265	5,774,320
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,225,575	1,209,767
機械装置及び運搬具（純額）	650,800	650,478
土地	2,093,519	2,093,519
その他（純額）	61,171	63,914
有形固定資産合計	4,031,066	4,017,678
無形固定資産		
のれん	409,313	397,274
その他	29,777	31,199
無形固定資産合計	439,091	428,474
投資その他の資産		
投資その他の資産	1,117,800	1,113,280
貸倒引当金	62,100	40,458
投資その他の資産合計	1,055,699	1,072,822
固定資産合計	5,525,857	5,518,975
資産合計	11,067,122	11,293,295

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	397,260	600,668
短期借入金	1,976,562	2,166,833
未払法人税等	130,361	19,844
賞与引当金	114,518	92,261
その他	318,514	444,187
流動負債合計	2,937,218	3,323,794
固定負債		
長期借入金	2,135,880	1,983,436
役員退職慰労引当金	396,664	399,569
退職給付に係る負債	71,846	73,574
その他	191,553	152,341
固定負債合計	2,795,943	2,608,921
負債合計	5,733,162	5,932,715
純資産の部		
株主資本		
資本金	603,900	603,900
資本剰余金	458,400	458,400
利益剰余金	4,201,484	4,211,381
自己株式	28,968	28,968
株主資本合計	5,234,815	5,244,713
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	59,787	76,720
繰延ヘッジ損益	39,357	39,146
その他の包括利益累計額合計	99,144	115,866
純資産合計	5,333,960	5,360,579
負債純資産合計	11,067,122	11,293,295

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

	(単位：千円)	
	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
売上高	2,380,962	2,438,704
売上原価	1,899,742	1,930,000
売上総利益	481,219	508,704
販売費及び一般管理費		
運賃諸掛	99,823	81,019
貸倒引当金繰入額	21,641	2,017
給料及び賞与	100,596	115,739
賞与引当金繰入額	12,748	24,187
役員退職慰労引当金繰入額	2,655	3,605
その他	178,692	197,272
販売費及び一般管理費合計	416,157	423,841
営業利益	65,062	84,862
営業外収益		
受取利息	48	108
受取配当金	2,051	2,322
為替差益	13,998	-
雑収入	9,577	5,111
営業外収益合計	25,676	7,542
営業外費用		
支払利息	7,547	7,271
為替差損	-	9,458
雑損失	76	1,848
営業外費用合計	7,623	18,578
経常利益	83,115	73,826
税金等調整前四半期純利益	83,115	73,826
法人税、住民税及び事業税	21,821	25,676
法人税等調整額	17,765	611
法人税等合計	39,587	26,287
少数株主損益調整前四半期純利益	43,527	47,538
四半期純利益	43,527	47,538

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	43,527	47,538
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	4,042	16,932
繰延ヘッジ損益	30,816	210
その他の包括利益合計	26,774	16,721
四半期包括利益	70,301	64,260
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	70,301	64,260
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

売上高及び売上原価の季節の変動

前第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)及び当第1四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年6月30日)

養魚用配合飼料の需要は、養殖魚の成長過程に応じ、摂餌が旺盛になる夏から初冬までが多く、水温が低下し餌食いが鈍くなる冬から春は少なくなるという季節の変動があります。したがって、第1四半期連結累計期間の売上高及び売上原価は、第2四半期連結会計期間及び第3四半期連結会計期間と比べ低くなる傾向にあります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
減価償却費	70,356千円	67,125千円
のれんの償却額	12,038	12,038

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	37,640	8	平成25年3月31日	平成25年6月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月27日 定時株主総会	普通株式	37,640	8	平成26年3月31日	平成26年6月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	水産事業	食品事業			
売上高					
外部顧客への売上高	1,619,615	761,347	2,380,962		2,380,962
セグメント利益	54,227	77,228	131,456	48,341	83,115

(注) 1 セグメント利益の調整額 48,341千円は、各報告セグメントに帰属しない全社費用等であり、提出会社の管理部門に係る販売費及び一般管理費55,845千円、営業外収益11,864千円、営業外費用4,359千円であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	水産事業	食品事業			
売上高					
外部顧客への売上高	1,490,332	948,372	2,438,704		2,438,704
セグメント利益	83,480	68,918	152,398	78,572	73,826

(注) 1 セグメント利益の調整額 78,572千円は、各報告セグメントに帰属しない全社費用等であり、提出会社の管理部門に係る販売費及び一般管理費68,999千円、営業外収益2,848千円、営業外費用12,421千円であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
1株当たり四半期純利益	9円25銭	10円10銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益(千円)	43,527	47,538
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益(千円)	43,527	47,538
普通株式の期中平均株式数(千株)	4,705	4,705

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年8月11日

株式会社ヒガシマル
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 西元浩文 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 只隈洋一 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ヒガシマルの平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成26年4月1日から平成26年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成26年4月1日から平成26年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ヒガシマル及び連結子会社の平成26年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注)1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。